

この会報は行政区等を通じて青少年育成牛久市民会議に賛同された会員の会費等により制作されています。

会報 ふれあい No.63

令和元年7月1日

発行・編集 青少年育成牛久市民会議 事務局 生涯学習課 TEL.871-2301



絶好の五月晴れに最高の人出
多様な触れ合い育てた
30回の鯉まつり

令和元年で30回の節目を迎えた今年の鯉まつりは、5月3日、10日間のゴールデンウィークと絶好の五月晴れに恵まれ、広報担当者のカメラに写り込む人出が「例年よりかなり多いのでは……」と思える、盛大な鯉まつりになりました。

来場者は開会セレモニーが始まるころからどんどん増え始め、午前11時ごろには最高潮の賑やかさに達したように思われました。

みんなの祭りの合唱 校長とエールを交換

開会セレモニーの合唱「みんなの祭り」は奥野小学校の1〜6年生51名が歌いました。歌い終わって池の向こうの米資席に自分たちの校長を見つけ、「あ、



いた、いた」「校長先生」と呼びかけると、校長も大きく手を振って応えていました。

舞台発表では、今回初めて中学生が登場しました。最初は牛久一中混声合唱団、続いて地元の中太鼓を受け継ぐ牛久三中和太鼓部。その後、奥野小学校土曜カッパ塾ダンスクラス、FM—UUぎゅぎゅっ娘、UUキッズダンスが登場しました。

全国レベルの合唱コンクールで数々の賞に輝いている一中混声合唱団は、コンクールや演奏会で歌っている歌だけでなく、テレビドラマの「水戸黄門」と「銭形平次」のテーマソングも合唱曲にアレンジして披露しました。磨き抜かれた歌声に、観客たちは身じろぎもせず聞き入り、一人一人が一曲ごとにしっかりと拍手している光景が印象的でした。



毎月第3日曜日は「家庭の日」



広がる力強さと爽やかさ 一中合唱団に「やはり本物」

一中合唱団の評判はTV等で知っていたという、2人の孫を連れた今年還暦とは見えないおばあさんは「本物の良さに出会

った。テレビや屋内のホールで聞くのとは違う、力強さと爽やかさが会場に広がる感じも素晴らしかった。こういう合唱の出来る中学生が自分たちの学校区に居ると思うと、とても誇りに思う」と話していました。
一中の合唱は一中だけのもの



のではなく、牛久の文化の新しい核として育ちつつある」という感想を述べた高齢者もいました。観客の中には合唱団の生徒たちの親もたくさんいた、と観察していた人もいました。
三中の和太鼓は女生徒だけのチームでしたが、和太鼓独特のリズムと力強さに加えて、合間に演じられた踊りにも拍手が湧いていました。
各コーナー、次々に行列はしこ車は10分で予約メ切
開会セレモニーが終わると、水上ステージ以外のコーナーが一斉に活動を開始しました。来場者の出足が良かったので、各コーナーにはどんどん行列が出来ていきました。
はしこ車に一度に乗れるのは、子どもだけなら3〜4人、子どもと大人なら子ども2人十大人1人ぐらいですが、搭乗整理券は9時40分には1日分全てが予約済みになってしまいました。



住む地域違う6家族13人 申し合わせ会場で落ち合う

来場者で一番目立ったのは、やはり家族連れです。両親と子ども、父親または母親と子ども、祖父母と孫。中には子どもと両親と祖父母の6人連れという家族も居ました。「今年は親戚の子どもが三中の和太鼓に出演するので、それが目当て」とのことでした。

数人の子どもを相手に遊んでいる父親が目につきました。「全部自分の子どもというわけではない」と話しているうちに母親たちが集まってきました。同じ地域に住んでいるわけではないという、父親2人、母親4人、子ども7人の6家族13人が、予



め申し合わせて鯉まつりに集合し、一緒に遊んでいたのです。

今やみんながりピーター 牛久離れても毎年来る子供も

鯉まつりは、親子、家族、友だち、住民同士の触れ合いの場として、今やすっかり定着しているの、回を重ねるごとにリピーターが増えるのは、いわば当たり前。今では初めての人を探す方が難しくなってきました。

けん玉が「競技会によく出場する」くらい上手な子どもは、土浦から来ました。かつては牛久に住んでいて、その当時から毎年欠かさず来ているとのことでした。

母親と4歳の男の子の2人連れは、子どもが赤ん坊の時から来始めて今回が3回目。今年は魚のつかみ取りでどじょうが1匹とれたと喜んでいました。

おじいちゃんと一緒に来場し今年で7回目という小学6年生男子は、靴を履いたまま池に入らずにウナギを捕獲しました。魚は池の中央で追いかけて回すより、隅に追い詰めてつかむ方がうまくいくことを感得しているリピーターは、かなりいるようです。

両親と子ども2人の家族は4回目の来場。子どもは今年も魚のつかみ取りに夢中でしたが、家では以前とつたドジョウを今でも飼っているそうです。稲敷市からやって来た今年で3回目という4人家族も、2年前にと



つたウナギとドジョウが、今でも水槽で生きていると言っていました。

他の市町村からの来場 目立つ「ネットで探して」

鹿嶋市からやって来てテーブルカーリングをやっていた親子3人は、今回が初めてでした。10連休で子どもと遊べる所をネットで探したら牛久の鯉まつりが見つかったので、早速やって来たとのことでした。

新聞の告知記事を見て成田市からやって来た親子5人家族も今回が初めて。首尾良くはしご車の搭乗整理券をゲットし、地上40層の高さから牛久大仏を一望できたと喜んでいました。

牛久に引っ越してきたばかりという親子3人。まずはしご車の予約を済ませ、それから起震

車を体験。子どもは「怖かった。痛くて泣いていた」そうです。今年は民生・児童委員と主任児童委員が初めて自前のコーナーを出しました。得点源となる3つのコーナーに、30秒間にどれだけお手玉を集めるかを競う「お手玉ターゲット」です。高学年や中学生が必ずしも成績が良いわけではなく、高得点をとっているのはほとんどが低学年の子どもでした。

親子で教わるこま、けん玉 指導者への礼に観客も感心

こまやけん玉のような技術を要する遊びは、みんな真剣になります。けん玉では、何回も何回もコツを教わった親子が、最後に指導者に向かって「有り難うございました」とお辞儀する



姿に、周りの観客も「いい光景だなあ」と言っているような笑顔を送っていました。

こまは4〜5回教えると、たがいがい回せるようになります。小さい子どもは親と一緒に覚えていくケースも多いとのことでした。

サッカーボールをゴール的に当てるストラックアウトでは、子どもたちの蹴ったボールの勢いが、数年前に比べるとかなり強くなっているような印象でした。フアッションも以前より決まっている感じですが。

幼稚園・保育園児の製作したパネルでは、自分が将来何になりたいかを描いた作品がたくさんありました。一番憧れの多かったのは「さっかーせんしゅ」でした。

牛久に溶け込む外国出身者はぐれた姉妹会えて嬉し泣き

竹ポックリではこんなことがありました。コーナーの担当者が、中近東か南アジアの出身と見える中学生ぐらいの女の子に「竹ポックリはどう？」と声をかけると「それどころではないんです」と泣き出しそうな表情。妹たちとはぐれて1時間ぐらい探し回っているとこころでした。

本部で放送してもらって、きようだい4人が出会えたとき、みんな抱き合い、泣いて喜んでいました。不安定な国際情勢の中で、世界のいろいろな国から来て日本社会に溶け込んでいる人たちが牛久にも居るんだと、コーナーの担当者は思ったそうです。



各部会の活動報告

(平成30年度)

家庭環境部会

◆親子ふれあい教室

そばづくり

母子で参加した5回連続だという男の子。お母さんのアドバイスはあつたけれど、作業は仕上げまで1人で進め、82歳のおじいちゃんにお土産として持ち帰るのだと言っていました。

そばづくりに連続6回参加したという6年生もいました。「今年が最後だが、頑張っていて良かった」と母親と顔を見合わせていました。



やきものづくり

親子3人に近所の5年生も加わって参加した4人組。平成も

最後なので、湯飲み茶わんの裏に「平成30年12月16日」と文字を入れ、記念にしようと話し合っていました。

母親と4歳・2年・3年の女の子、5年生の男の子の5人家族が、それほど苦労する様子もなく作業を進めていて「とても楽しい」。自宅は向台校区にあるが小学生は全員奥野小学校に通っていて、こちらも「とても気に入っている」。目映いようなポジティブさでした。



しめ縄づくり

母親と一緒に初めての参加だという3年生の男の子。縄をよじりながら中心部を作るのが難しかったと言いつつも、見本を参考にしながら見事に仕上げました。帰宅後父親に見せ、感想を聞くのを楽しみにしていました。

リースづくり

母親が仕事なのでおばあちゃんと参加した孫2人。それぞれ

1個ずつ、おしゃべりしながら、しかし真剣に作業を進めていました。テレビの近くに飾り付けののだとのことでした。

兄弟4人(男3人、女1人)だという4年生女子は、自分が希望して、母親と2人だけで初参加。すっかり半日リースづくりを楽しみ「思いつく出になる母親とのふれあいになった」と満面の笑顔でした。

ソーセージづくり

祖父母・父親と参加した男の子、おばあちゃんの手伝いをすることもあったと、上手に肉をこねていました。3世代で仲良く作業する様子はとても微笑ましいものでした。

乳児をおんぶしたお母さん。小学生と年長の女の子に役割分担させながら頑張る姿が印象的でした。子どもも素直に作業していました。

日曜カップ塾で料理教室に参加



加しているという小1の男子。慣れているのか率先して洗い物を手伝っていました。

門松づくり

長さを違えて、竹を3本斜めに切る。仮止めテープで結わえて12〜13回捲く。

竹を左手で押さえて右手でのごぎりをひく作業は、1人でやるうとするとかかなりの握力と腕力を要するので、父親と子どもとの真剣な共同作業が展開しました。



◆親子ふれあい映画鑑賞会

平成31年3月17日、午前と午後の2回「未来のミライ」を上映。二二八〇名の親子が人気の話題作を鑑賞しました。



社会環境部会

◆社会環境の実態調査

7月・2月

市内の社会的環境の実態調査
◆花の植栽6月・11月・3月
中央生涯学習センター、牛久消防署、栄町交番にプランターを設置。6月はサルビア、11月と3月はパンジーとビオラ。

◆みんなのしあわせ見本市



編集後記

今年で30回目を迎えた鯉まつりは、晴天にも恵まれて過去最高の13,500人の参加を数えることが出来ました。各コーナーでは、お手玉ターゲット、エアースト、カーリングIIなどアイデアが追加されて子ども達の人気を集めていました。特に他の市町村(つくば市、常総市、稲敷市、鹿嶋市、成田市)の家族の参加もあり、鯉まつりの人気もかなり横展開され、今後とも広がり進化が期待出来ると思います。